



■2月になります

校長 石川 拓

1月27日(月)に赤塚公園主催のパークミーティングに参加してきました。赤塚公園開園50周年を記念したキャラクター募集に、本校児童・生徒の応募作品を含めて342点の応募があったそうです。キャラクターに採用された作品が公開されたのでお知らせします。

こちらです→[50周年記念 キャラクター最優秀作品決定!!のお知らせ~|公園へ行こう!](#)

赤塚公園では、梅や、例年より一か月半ほど早く板橋区の花の「にりんそう」が咲き始めています。



※こちらです→[板橋区「にりんそう」](#)

学校は卒業・進級・進学準備を進めています。

今年度の中学部3年生は、高等部職業学科(職能開発科や就業技術科のこと)への進学予定者を除く全員が、知的障害特別支援学校高等部普通科への進学を予定しています。入学相談日は2月4日(火)です。中学部3年生のみなさん、当日は落ち着いて身に付けた力を存分に発揮してください。

2月21日(金)から28日(金)は「個人面談週間」です。担任と保護者様が、今年度の学びの成果と課題を確認して、卒業・進級後の学習のねらいや計画について話し合う機会です。この時期に全ての児童・生徒の教育課程所属(学級編制)を検討していますのでお子様によっては、来年度の学級所属についてご相談差し上げる場合があります。

今号の記事の最後に、令和5年12月末と令和6年2月の学校だよりに掲載いたしました「卒業認定・進級認定」「教育課程と学級編制」に関する説明を一部修正して再掲します。

個別面談までぜひお読みください。

■令和7年度教育課程変更について

東京都教育委員会(都教委)との相談が終了して令和7年度の教育課程変更の内容が固まりました。

12月に開催しました臨時保護者会以降に保護者様から寄せられたご意見と、都教委との相談を受けて、一部修正を行いました。1月29日(水)に開催しましたPTA顧問会議にて情報提供をさせていただきます。全校保護者の皆様には、近日中にYouTubeにて説明動画を配信いたします。準備が完了しましたらさくら連絡網でお知らせいたします。

今回の説明内容は主に以下の2点です。

- ①「終業時刻・下校便発車時刻」の変更
- ②「小学部高学年月曜日午後時間割」の変更

教育課程全体の様々な工夫や変更等につきましては、3月全校保護者会でご説明いたします。

放課後等デイサービス事業所(放デイ)にもできるだけ早く情報共有をいたします。2月26日(水)に開催する第三回放デイ連絡会を待たずに、保護者様向け説明動画配信開始の後に共有する計画です。

■2月 校外のイベントの紹介

(1) **明日2/1(土)開催!**

東京都立練馬特別支援学校
第9回こぶし祭り(販売・実演)

13:00~14:30

高等部を知る良い機会です。

案内の詳細は同校ホームページをご覧ください。

→[こちらです](#)



(2) **本校児童・生徒の作品が展示されています!**

ご家族でぜひご来場ください。

令和6年度板橋区立中学校作品展	
会場	板橋区立美術館 HP→ こちらです
日時	1月21日(火)~2月4日(火) 9:30~17:00まで (入場は16:30まで 月曜休館)
出品学年	中学部1・2・3年 ※各学年10点程度

第75回板橋区立小学校児童作品展	
会場	板橋区立美術館 HP→ こちらです
日時	2月8日(土)～2月24日(月) 9:30分～17:00まで (入場は16時30分まで) ※月曜休館
出品学年	小学部1～6年生 ※各学年8～20点程度

第74回東京都公立学校美術展覧会	
会場	東京都美術館(台東区上野公園8-36) HP→ こちらです(2月カレンダー)
日時	2月14日(金)～2月19日(水)まで 月曜休館 9:30～17:30まで (入場は17時まで2/19は正午終了)
出品学年	小学部5年・6年・中学部3年 ※各学年1点ずつ

■ 令和6年度「公開研究報告会」を開催します

研究研修部主任 主幹教諭 菅井 郁

2月4日(火)教員を対象とした公開研究報告会を開催します。本校は児童・生徒がよりよく学ぶことのできる教育課程を作るために、【「学びにつながるカリキュラム・マネジメント」～高島スタンダードの検証 生活・理科・社会を中心に～】をテーマに、3カ年計画で研究活動を進めてきました。

この研究は東京都の指定研究である「知的障害の状況や程度に応じた指導の在り方の研究」と並行して取り組んできました。

研究指定校の中でも、本校には「令和5年度から『生活』(小学部5・6年)、令和7年度から『社会』『理科』(中学部)」を取り扱うようにという都の指示がありました。

写真は小学部5年生の「生活」で学習した「ものの重さを比べよう」の授業で、「二つの玉を持ち、重い方を予想する」「天秤を使い、実験の結果を発表する」という学習活動に取り組んでいる様子です。

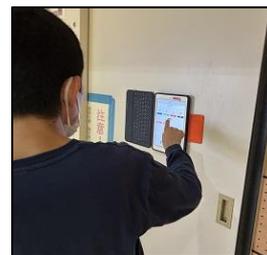
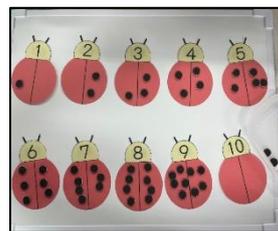
児童は目を閉じて二つの玉の重さを比べようとしたり、天秤で重さを量った結果から「(重いのは)こっち!」と答えたりしていました。この学習内容



は、教科「生活」として指導できることと、中学部で設置する教科「理科」の中でのつながりのある学習を行うことができます。

同様に「生活」の中で学ぶ他の内容の一部は「社会」の学習につなげることができることについても研究・検証しました。

今年度は、3カ年計画の最終年度となりました。これまでの研究の経過を振り返り、成果を報告し、今後の教育活動の質の向上を目指します。「教材・教具展示会」も併せて実施し、研究成果を他校とも共有していきます。今年度は従来の手作り教材に加え、デジタル教材の展示も行います。



■ 小学部 2学年合同集会

小学部主任 主幹教諭 藤井 夢

小学部では、合同集会を実施しています。1年生は4年生と、2年生は5年生と、3年生は6年生と、それぞれの学年がペアとなり集会の中で交流を行いました。

この集会は「他学年の友達や教員と関わり、身体表現したり、歌ったりする。」「他学年の友達を意識し、触れ合いを楽しんだりする。」など、異年齢集団の交流の機会を設けることを目的としています。

合同集会1回目は1年生と4年生で12月17日に実施しました。集会の始まりは、1年生の学年音楽の歌「音楽始めるよ!」からのスタートです。1年生は自分たちの知っている曲に、リラックスした気持ちになりました。



次に「ばななくんたいそう」「ケセラセラ」のダンスをそれぞれの学年が発表し、続いて、1年生と4年生が手をつないで踊りました。



集会の最後は4年生の代表が前に出て手話の見本を見せながら「にじ」を歌いました。子供たちの大好きな曲です。集会はしっとりと盛り上がりました。

教室に帰った後に1年生からは「お兄さん、お姉さんとまた集会をしたい」と感想を聞くことができました。

2回目は2年生と5年生の集会です。1月22日に実施しました。2年生代表の「始まりの挨拶」からのスタートです。ちょっぴり緊張しつつ、お兄さんやお姉さんの前でしっかり挨拶ができました。「イカイカイルカ」「青い空に絵を描こう」それぞれ学年で学んだ歌を発表した後に、「エビカニクス」を



みんなで踊りました。5年生のお兄さんが、2年生のみんなの近くにやって来て、ダンスに誘ってくれる様子がありました。

ダンスの後に、6年生の学年音楽の歌「さよなら音楽♪」をみんなで歌いました。5年生の代表が、しっかりと終わりの挨拶をすると、2年生からは、「かっこいいね」「すごいね」と憧れの視線が注がれました。5年生に見送られて2年生は退場しました。素敵な時間をもつことができました。

集会は、年に一度のイベントですが、教員や子供たちはそれぞれ本番に向けた準備を行います。年長の学年が会場の準備をしたり、下級生を見送ったりしてくれます。

担当教員が計画を立て、学年集団のカラーや子供たちの得意なこと苦手なことをお互いの学年ですり合わせて授業を作っていきます。この事前の準備は、時間を要するものですが、教員にとっても他学年を知る素敵な時間です。

校内では、廊下ですれ違った他学年の児童同士が互いに挨拶する姿を見ることがあります。大人の知らないところで、子供たちの付き合いが広がり子供同士の世界ができていることを、嬉しく思います。

※予定していた3年生と6年生の集会は、感染症の拡大防止のため、実施ができませんでした。

■ 小学部6年保護者作業学習見学会

中学部主任 主幹教諭 竹田 憲功

12月18日(水)に小学部6年生の保護者を対象とした作業学習見学会を実施しました。

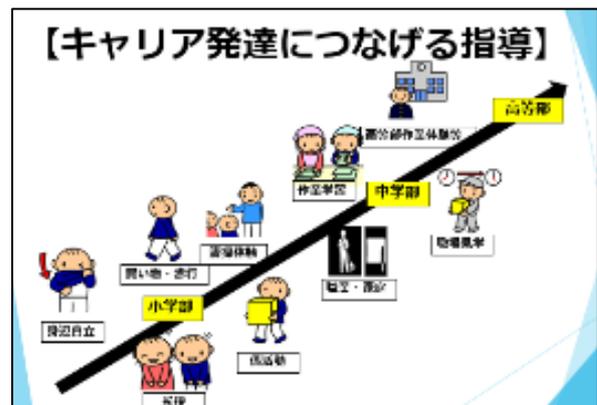
当日は20名を超える保護者の方々にご参観いただきました。



全体説明では、中学部で行われる作業学習を含む進路学習について説明いたしました。説明の概要は以下のとおりです。

- 中学部からは、作業学習や職業・家庭の授業があること
- 多くの生徒の進学先となる知的障害特別支援学校高等部の作業体験や、生活介護事業所(福祉園等)および就労継続支援B型事業所(作業所等)への職場見学を行うこと
- 令和7年度からは、作業学習の新たな作業種を開発して「ものづくり」から「サービスワーク」へと変更すること
- ※具体的には、「事務、洗濯、清掃、除菌清掃、リサイクル、環境整備」

以上の内容を学年ごとに系統立てて学べるよう、校内にプロジェクトチームを立ち上げて進めていることもお伝えしました。下図は系統立てた(つながりのある)学習のイメージ図です。



見学会に参加された保護者の方々からは、以下のような感想をいただきました。

- 将来に向けて、得意なことを伸ばしていけそうだと感じた。
- 学年が上がるにつれて、集中力がすごかったです。来年度から子供がどう変化していくか楽しみが増えました。
- 来年度から紙工や手工芸がなくなると聞いたが、

その代わりに行う作業のイメージがつきにくかった。

○来年度からサービスワークが主体になるとのことだったが、就労先によっては「ものづくり」も重要だと思うので、バランスよく学んでほしいと思った。

貴重なご意見をありがとうございました。今後も、本校の進路先となる高等部設置校である板橋特別支援学校・練馬特別支援学校等との連携を進め、学習内容が途切れることなくつながるように、学校間での連携や研修充実させていきます。

■ 保護者会や個人面談時の、
保護者の皆さんの入校方法が変更になります。

小学部主幹 藤井 夢

従来の方法 (状況に応じてどちらか設定)
「校庭門を使い、体育館棟から入校」
「東門を使い、昇降口から入校」

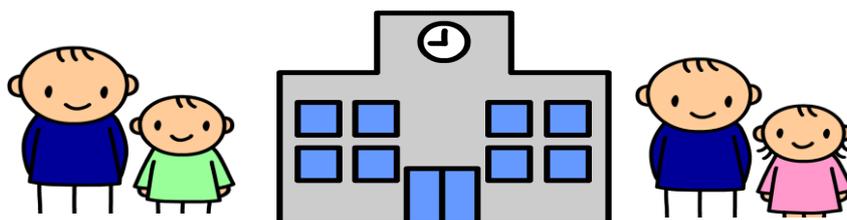


2月以降(原則)
東門(または正門)を使い、昇降口から入校する

設定した時刻よりも早くご来校いただいても、門の前でお待ちいただくことになる場合があります。
入校時刻に合わせてご来校いただきますようお願いいたします。

<保護者 2月以降の来校予定日>

2月 5日(水) 小学部授業参観
副籍報告会
2月18日(火) 体験入学(小6)
2月21日(金) ~ 28日(金) 個人面談
3月12日(水) 全校保護者会
小学部・中学部保護者会
3月24日(月) 卒業式(小6・中3)



【資料】個別面談に向けてお読みください

■ 卒業認定・進級認定のこと

(1) 卒業・進級認定

卒業・進級認定の大切さと手続きをまとめました。

(1) 卒業や進級を認定する決まりって？

「卒業認定」本校の場合は、小学部または中学部の全課程の修了を認めるという意味です。

「進級認定」その学年の全課程修了を認めるという意味です。

義務教育期間であれば出席することで卒業・進級認定されるということではありません。

認定の判断は授業態度や学ぶ意欲等を含めた毎日の学習成果の評価をもとにするという考え方が法律に定められています（学校教育法施行規則第57条）。

様々な事情で長期欠席（30日間以上欠席した者。欠席は連続である必要はありません。）している場合には、適切な方法でその成績を評価する事で、卒業認定できるとされています。

特別な事情を考慮して欠席中の面談や家庭学習を含めた指導・支援・学習の積み重ねと学習成果が問われます。オンラインでの学びも考慮します。

(2) 卒業式はやらなくてはいけないことなの？

校長は「全課程修了と卒業認定」「進級認定」を行って、「全課程修了者と認めた者に校長は**卒業証書を授与しなければならない**」（同規則第58条）と規定されています。これが「卒業式（卒業証書授与式）」実施の根拠となっています。

(3) 「卒業認定会議」「進級認定会議」を必ず開催

校長は卒業・進級認定のために教員から児童・生徒の出席や学習状況と成果の情報を得て判断します。そのために、2月下旬に「卒業認定会議」「進級認定会議」を開催します。

担任が一人一人の出席・遅刻・早退・欠席（その理由）の状況等をまとめた資料を基にして、日頃の学習状況と成果・成長を確認します。

この会議を経て、校長が認定した後に、「卒業証書」「学年修了証」作成を行います。

卒業証書は再発行できない大切な証書です。

卒業式に心を込めて授与します。

■ 教育課程と学級編制

知的障害特別支援学校の小学部・中学部設置校には ①「知的障害の教育課程」 ②「自閉症の教育課程」 ③「重度・重複学級の教育課程」の三つの教育課程を編成することができます。

どの教育課程で学習するのかは、在籍している全

ての児童・生徒について毎年度末に検討しています。

どの教育課程で学ぶのかによって学級所属が決まります。この学級編制を基にして新年度の指導体制を整えます。教育課程と学級は児童・生徒の学習環境そのものです。

(1) 学級の種類と教育課程の関係

学級の種類	教育課程	学級の児童・生徒数
普通学級	知的障害の教育課程	6人
自閉症学級	自閉症の教育課程	6人
重度・重複学級	重度・重複学級の教育課程	3人

(2) 各学級設置に関する東京都教育委員会の基準

普通学級と自閉症学級と重度・重複学級の編制基準は以下のとおりです。

○普通学級は人数が多いので多様な刺激を受けることができ、人間関係が広がりやすい良さがあります。

○自閉症学級は東京都が「各教科等を合わせた指導」の指導形態の学習として開発した「社会性の学習」を取り扱うことができます。本校ではどの学部もおおむね週2時間年間70時間程度計画しています。

○重度・重複学級は少人数学級です。担当教員との固定的な関係を重視した、きめ細かな健康・発達面での配慮が必要なお子さんに向けています。

※社会性を伸ばすねらいの活動や指導は「普通学級」でも「重度・重複学級」でも行います。

(3) 担任教員配置の考え方

都教委の基準では、小・中学校と同様に特別支援学校も1学級1名の教員配置が基本です。基本の配置に加えて特別支援学校の教職員配当基準によって更に配当される教職員数があります。この配当分を児童・生徒の実態に応じて学年や学級担当に加えることで複数担任配置とする場合もあります。毎年、より良い指導体制となるように配置しています。

※一部のお子様につきましては、来年度の教育課程・学級所属を変更する場合があります。年間の学習評価等を総合的に考えて校長が決定いたします。

※変更の例【普通学級⇔自閉症学級】【普通学級⇔重度・重複学級】【重度・重複学級⇔自閉症学級】

※重度・重複学級は、法が定める障害の程度に二つ以上該当することが必要です。対象となる児童・生徒は、都教委が各学校から在籍者や入学予定者の実態調査等を行った上で認定します。

○小・中学部普通学級 6名以内/担任1名

○小・中学部自閉症学級 6名以内/担任1名

※東京都は平成22年度以降、小・中学部のある全ての知的障害特別支援学校に自閉症学級を設置しています。学級規模は普通学級と同じです。

○小・中学部重度・重複学級 3名以内/担任1名

(校長 石川 拓)

